
餓鬼

笹クレ団子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

餓鬼

【Nコード】

N0536D

【作者名】

笹クレ団子

【あらすじ】

ホームレスの男が突然飽食を手にする話です。

目の前の光景に男は絶句した。

世界中のありとあらゆる料理が一同に介していた。和食に洋食、中華を初めアジア各国の料理、どこの国の料理か判別できないもの、肉に野菜に魚介類、赤青黄…。

それまでホームレスをしていた男にとっては夢のような光景であった。

今すぐにもそれらの料理を食いあさりたい衝動が取り憑いていた。

男の目の前には料理とそれ以外、白い服を着た老人があつた。老人は白衣を着ている。その姿から男は老人を医者だろうと思った。白い服にしわくちな白い肌、白い髭をたくわえ、眉毛も白い。

男には生気が無いが、老人には生気が漲っていた。

数時間前に男は公園のベンチでゆっくりと、しかし着実に死へ向かつて不毛な時間をぼんやりと費やしていた。生命を維持するための栄養が底を尽きかけていた。意識はモウロウとし、全身の感覚はただ重かった。

そこに黒服の男達が数人現れた。始めは何が起こったのかさっぱり判らなかつた。黒服達は男の腕を掴み、その場から引き離そうとした。強引に。男がいくらぼんやりしていても、いくらただ死を待っただけだったとしても目の前に急速に迫る死の可能性を回避しようとするのは必然であつた。栄養の行き届いていない腕、足、首、腰、間接という間接を全てをデタラメに動かし抵抗を試みた。最後の抵抗に相応しい狂ったような行動であつた。

黒服の男は、ホームレスの男とは違い、身体の隅々まで栄養が行き届いた屈強な腕、それも二本ではなく、多数本でホームレスから自由を奪い車へと押し込んだ。

ホームレスは尚も生への執着を見せる。今までの自らの腑甲斐無

い生き様を恥もせず、生へ執着した。黒服にとってはただ面倒が一つ暴れているに過ぎず、面倒事を消すには薬を嗅がせることが最良の手であった。薬物はホームレスの意識を消し、面倒事も消し去った。

気が付くと男の目の前には食があつた。

「気が付いたようだな」

目の前の白い老人が、恐らく男に話しかけてきた。

「誰だ」

「ここにある食べ物は全部君のものだ」

すぐに意味は判らなかつたが、唐突に男は無限の御馳走を手にしたのだつた。

「これ、全部食つていいのか」

「そうだ。好きなだけ食べればいい。だが一つだけ条件がある」

「何だ」

「残さず食べること」

言葉を聞き、後は本能だつた。手当たり次第に口に含んだ。味は関係ない。空腹を満たすものが有るだけで幸せだつた。

残さず食べる。栄養の全くない男には無限の栄養を摂取することは容易いように思えた。

三十分もしない内に満腹になつた。男の胃は鍛錬を怠つたために貧弱であり、望む栄養も今まで耐え抜いて来た分ではなく、今必要な分しか必要としなかつた。

「誰かは知らないがありがとう。もう満腹だ」

「それは良かった。残りもこの調子で食べてくれ」

そう言う老人は部屋を後にした。

部屋には頑強そうな扉が一つあるだけで、他には無限の食べ物が残されていた。

男には状況が理解できなかったが、目の前の御馳走を全部食べればいいのだらうと、考えていた。よく判らないが、悪い状況には思えなかつた。

初めの数日は何の苦もなく満足した日々を送った。世界の食を好きなように食べることができた。それまでの男からしたら天国そのものだった。

しかし、その後には地獄が待っていた。世界中の料理は腐りだし、異臭を放ち、食べても腹を下す。部屋に備え付けられたトイレを日に何往復もする。それでも少しでも栄養がある腐ったものを食べた。しかし、いくら食べても終わりが見えてこない。世界には果てしかなかった。

頑強な扉を叩き、どうにかこの地獄から出してもらおうと懇願する日が続いた。

地獄の門は閉ざされたままだった。

やがて男は衰弱し、ホームレスだった時と同様にただ死を待ったけとなった。それはホームレスだったころよりもより強力な苦痛だった。世界中の料理を目の前にそれを食べ損ねたということがその原因だった。

意識は薄れ、今まさに死を迎えるという瞬間、老人が現れた。老人はおにぎりを一つ持っていた。男は薄れていく意識の中でこう言った。

「どうか、このまま、私を、死なせて、下さい」
願いはおにぎりと同じく放置された。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0536d/>

餓鬼

2010年11月14日15時15分発行